

第2章 授業で勝負する

第4節 授業記録を読む

授業は生もの、計画通りには行かない。そもそも上手くもない。しかし、ここ10年ほどの授業記録を振り返れば、何か見えてくるものがあるように思います。本節ではいくつかの授業記録と、あわせて今後の授業づくりのヒントを紹介したいと思います。

この節は、

■授業記録を読む「総合」■

◎「バケツ稲から広がる世界」～総合的な学習の時間～ 2ページへ

2003年度5年生の記録です。学習内容を一般化することはできませんが、総合の年間計画や活動の組み立て方の参考になるのではないかと思います。

■授業記録を読む「文学」■

◎2004年 6年 「海の命」 14ページへ

「叙述に即して」（「根拠を明確にして」）読むことをテーマにした読みの授業記録です。

◎2005年 6年 「海の命」 23ページへ

教材の重みに完敗した前年度のリベンジに、同じ場面で再挑戦。結果は、またしても撃沈の記録。

◎2006年 3年 「ちいちゃんのかげおくり」 33ページへ

音読を中心に据え、読み取りと音読表現を一体化した活動による読みの授業記録です。

■授業記録を読む「説明文」■

◎2007年 6年 「平和のとりでを築く」 41ページへ

「自分の考えを持ち、それを発信する」という説明文教材の最終目標に迫る試み。冒険心溢れる（自分としては）実践です。

◎2008年 6年 「生き物はつながりの中で」 49ページへ
「要約」を目標にした、説明文の読みの授業です。読みの基本のノウハウが詰まっているつもりです。

◎2009年 5年 「サクラソウとトラマルハナバチ」56ページへ
「要旨をとらえよう」を目標にした、説明文の読みの授業です。前年の記録と授業の組み立て方は同じです。

■明日の授業を作る■

◎「学びの共同体」を作る 62ページへ

◎【補説】「学びの共同体」をめざして 65ページへ

佐藤学さん(第2章 第3節 「論理力を育てる」で「21世紀型の学校」について紹介した)が提唱する「学びの共同体」について紹介します。

◎説明文と文学の授業を作る 71ページへ

授業のユニバーサルデザイン化理論に基づいた、説明文教材と文学教材の授業づくりのポイントを紹介します。

の4つの項から成っています。一度に読み通すのは大変ですので、必要と興味に応じて参照していただくのがいいと思います。

■授業記録を読む「総合」■

「バケツ稲から広がる世界」～総合的な学習の時間～

これは、2003年度5年生のクラスにおける実践記録です。2004年1月の文章で、校内研究紀要所収。総合の活動の組み立て方や展開の仕方の参考にしてください。

1 はじめに

「意欲的な子どもを育てる学習指導」という研究主題は、「(1)自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てること。(2)学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探求活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにすること。」という総合的な学習の時間のねらいを、より抽象的、端的に表現

したものと言える。

2 年間カリキュラム

		テーマ(バケツ稲から広がる世界)							
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
総合	体験活動		田植え		観察		稲刈り 刈り入れ		
	栽培活動	バケツ稲づくり	土づくり、もみぎ、田植え		(栽培)			収穫	収穫した米を使って…
	調査活動	課題作り	課題研究	発表			課題研究 討論会		
理科	植物の発芽と成長			<ul style="list-style-type: none"> ○ 西工の米作り ○ 米作りの道具、今と昔 ○ イカモを復元した米作り ○ 世界の米作り ○ 米の品種 ○ 米を使った食物 ○ 米を伴った稲刈り ○ 米を伴った稲刈り 	花が深へ			<ul style="list-style-type: none"> ○ はたな生産調整 ○ 4. 食生活の変化 ○ 農家から見た生産調整 ○ 食料支援 ○ 米の輸入 	
社会				米作りのこころな地域				世界とつながる食料生産	
国語								「3. 環境会議」を開こう	

3 指導案 — 第5学年 総合的な学習の時間指導案 —

2003年11月12日(水) 第4校時

指導者 教諭 草尾佳秀

1 単元名 大単元「バケツ稲から広がる世界」 小単元「収穫した米を使って…」

2 目標

- 体験や調査活動をもとに、米の使い方を分かりやすく提案する。
- 米を使っての活動を組み立て、なかまと協力しながら実践する。
- 話し合いや活動を通して、食と農に対する考えを深めるとともに、自分たちの生活に生かそうとする実践的態度を育てる。

3 単元について

- 「バケツ稲から広がる世界」は、バケツ稲の栽培活動を軸に、休耕田をお借りして行っている田植えや稲刈りの体験活動、米について調べる調査活動で構成されている。本小単元「収穫した米を使って…」は、大単元「バケツ稲から広がる世界」のまとめの単元として位置づけている(大単元の構成については前頁参照)。

米作の問題は5年生社会科の重要な学習課題であり、校区の産業を考える上でも欠くことのできない課題である。しかし、周囲を田んぼに囲まれているという環境にあるものの、実際に米作をしている家庭は少数であり、田植えや稲刈りを体験したことのある子どもは数人にとどまる。子どもたちに米作を引き寄せるには、体験活動が欠かせない。それも、土作りから収穫までの全工程を自分の手でやり切らせたい。そんな思いから、バケツ稲栽培を活動の軸に据えた。

WTO農業交渉での協議が重要な局面を迎え難航している。生産調整の問題も新たな段階を迎えた。米作を取り巻く環境は、生産農家にとってきわめて厳しい。調査活動では、農業を巡るこうした現実子どもなりに向き合わせたい。

本小単元は、栽培活動・体験活動と調査活動を統合し、自分が得たものを「米を使う」という行為で具現化しようとするものである。

- 子どもたちは、栽培活動や体験活動には意欲的に取り組むことができた。一方、調査活動においては、グループ内の各個人の情報収集や情報処理能力に依るところが大きく、深まりに差が見られた。しかし、前小単元の最後に行った「生産調整に賛成か反対か」大討論会では、子どもたちの食と農に対する知的関心が格段に向上した。本小単元では、具体的な実践活動を実現するための話し合いという場の設定により、食と農の問題をいっそう子どもたちに引き寄せたいと思う。
- 本校の研究主題「意欲的な子どもを育てる指導ー『食』に関する体験的・問題解決的な学習を通してー」に触れておきたい。「意欲的な子どもを育てる」というのは研究の目的であり、「『食』に関する…」は目的に迫る手段・方法である。どういった学びの場を用意することが(換言すると、どんな仕掛けを作ることが)子どもの意欲につながるのかをポイントに小単元を組み立て、指導に当たりたい。

4 指導計画(全12時間)

第1次 収穫した米の使い方を決めよう……………4時間(本時は第3時)

第2次 収穫した米を使って○○をしよう……………6時間

第3次 まとめをしよう…………… 2時間

5 本時案


(1)ねらい

- ・米の使い方について、考えのもとになった根拠を示しながら、みんなに分かりやすく提案できる。
- ・他のグループの主張と自分の主張を調整しながら意見が言える。

(2)展開

主な学習活動	教師の支援と留意点	評価
1 本時の学習課題をつかむ。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; display: inline-block;">収穫した25kgの米の使い方を決めよう</div>		
2 米の使い方を提案する。	<ul style="list-style-type: none"> ・資料を適切に活用しながらプレゼンテーションできるように支援する。 ・要点をメモしながら聞くようにさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・根拠を示しながら分かりやすく提案できたか。(相互評価)
3 25kgの米の使い方について話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・自他の共通点と相違点を整理して意見を言うようにさせる。 ・話し合いを通して提案された活動の目的が明確になってくるように支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他のグループの主張を踏まえて意見が言えたか。(自己評価)
4 次時の活動の見通しを持つ。		

4 授業記録

学 習 活 動	T：指導者の発問・指示 C：児童の活動
課題をつかむ 	<p>T：今日は、25kgのお米の使い方を決めます。6つのグループの提案に基づいて、決めていきます。まず、提案を行います。提案する人たちは、自分たちの提案の中身がみんなによく伝わるように、聞く人たちは、提案のポイントは何かをメモしながら聞きます。提案が終わると、その後の話し合いをどう進めるか作戦タイムをとります。自分たちと他のグループのポイントはどこが同じでどこが違うのかを整理しながら、話し合いの進め方を考えます。そして討論をして、米の使</p>

い方を決定します。

T：最初に、おにぎり①の人たち、お願いします。

お米の使い方を決めよう

グループ	メ	モ	要求量(kg)	提案は分かりやすかった？
アラカルト				3 2 1 └──┬──┘
おにぎり①				3 2 1 └──┬──┘
おにぎり②				3 2 1 └──┬──┘
オムライス				3 2 1 └──┬──┘
食料支援				3 2 1 └──┬──┘
手巻きずし				3 2 1 └──┬──┘

■他のグループの意見をしっかり聞いて意見が言えましたか

■感想

提案する



C(おにぎり①)：(提案)

提案のポイント

◎全校生のみんなに美味しいおにぎりを食べてもらいたい

◎炊いた米のおいしさを味わってもらいたい

キャッチコピー

★「はえぬき」の本当の味が出ておいしい★

○要求量 12kg(調理用 10kg、材料代 2 kg)

C(おにぎり①)：質問はありませんか。

C：調理用 10kg で全校生に配れるのですか。

C(おにぎり①)：配れます。1人におにぎり1個で計算しました。

T：少し加えますと、お茶碗1杯分のお米を 60 g として、1 kg のお米で 16 個、10kg で 160 個という計算でしたね。

C(オムライス)：(提案)

提案のポイント

◎オムライスは、日本生まれの洋食料理

◎オムライスは、今の食事に合っている

◎学級みんなで楽しく

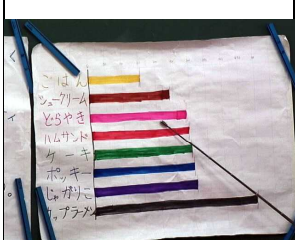
キャッチコピー

★学級で楽しく食べようオムライス★

■要求量 6 kg(調理用 2 kg、材料代 4 kg)

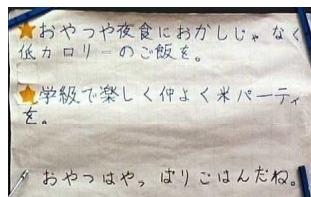
C(アラカルト)：(提案)





提案のポイント

- ◎おやつや夜食におかしじゃなく低カロリーのご飯を
- ◎学級で楽しく仲良く米パーティーを



キャッチコピー

★おやつはやっぱりごはんだね★

要求量 6.5kg(調理用 1.5kg、材料代 5 kg)

C(おにぎり②) : (提案)



提案のポイント

- ◎親に感謝
- ◎いっしょに味わう
- ◎親子で楽しく ※参観日に実施

キャッチコピー

★親子で食べよう、おいしいおにぎり★

要求量 9.5kg(調理用 4.5kg、材料代 5 kg)

C(手巻き寿司) : (提案)



提案のポイント

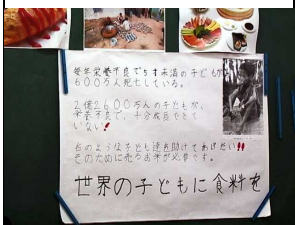
- ◎オリジナルのすしを作る
- ◎おいしく食べてもらいたい
- ◎食生活を和風化したらいい

キャッチコピー

★好きなものを巻いて食べよう★

要求量 8 kg(調理用 2 kg、材料代 6 kg)

C(食料支援) : (提案)



提案のポイント

- ◎毎年栄養不良で5才未満の子どもが600万人死亡
- ◎2億2600万人の子どもが栄養不良で十分成長できていない
- ◎子どもたちを助けるために米を売る

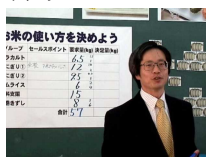
キャッチコピー

★世界の子どもに食料を★

要求量 15kg

T : 6つのグループの提案が終わりました。要求量は、

話し合う



全部で 57kg になりました。実際のお米は 25kg しかありません。それでは、自分たちの要求を通すために、この後の話し合いをどうするかという作戦タイムを 5 分間とります。

C : (各グループで相談)

T : 作戦タイム終わり。では、これから米の使い方を巡る話し合いを始めます。意見のある人は手を挙げて発言してください。

C (おにぎり①U) : 私たちは海苔と塩だけで握るので、ハエヌキの本当のおいしさが分かります。具を入れると、新鮮なお米の本当の味が分からないのじゃないですか。

T : ご飯そのものの味が分かるのは、おにぎり①だけだということですね。他の人たち、どうでしょうか。

C (アラカルトM) : それだけだったらつまらないじゃないですか。

C (おにぎり②T) : 具を入れて食べた方がおいしいと思います。

C (アラカルトM2) : 海苔と塩だけだったらしょっぱい。

C (食料支援O) : 塩を入れたらハエヌキの味もしないのじゃないですか。

C (おにぎり②O) : 具を入れて味わった方がおいしいと思います。

C (手巻き寿司N) : 具を何も入れなかったらさびしいです。

C (アラカルトM) : 本当に新鮮なんですか。

C : 新鮮じゃないと思う。

C (食料支援O) : 塩を入れるとハエヌキの本当の味がしないのじゃないですか。

T : ちょっと待ってくださいね。交通整理をします。このお米が新鮮か新鮮でないかという話については、稲刈りをしたのが 1 ヶ月ほど前ですね。このお米を来年の秋まで食べるんですよ。今新鮮でないとする、日本中に新鮮なお米などないですよ。問題は、塩を付けると味がどうかということだけども、みなさんがお



見通しを持つ

にぎりを作る時に手に少し塩を付けるという程度のもので、それでお米の味がしなくなるということはないと思います。Uさんのところはハエヌキというお米のおいしさを味わうし、他のグループは味を付けて食べる。そこに違いのポイントがあると主張しているわけです。別のポイントありますか。

C(食料支援O)：支援は他のところと違って食べるということじゃないから、そこが支援の特徴だと思います。

T：それについて言いたい人いますか。

C()：自分たちで作ったお米なんだから、自分たちで食べたらいいと思います。

C(おにぎり②F)：作ったお米を売っても、お金は送るんだしたら私たちは何も得しないで、損してるみたいだと思います。

T：今言っているのは、自分たちの作ったお米なんだから自分たちのために使ったらいいじゃないかということですね。「食べる」ということは、要するに「自分たちのために」ということです。ここが2つ目のポイントですか。

C(食料支援O)：得するのは、人の命を助けるということだと思います。

T：討論は後にします。他の点で。

C(手巻き寿司K)：オリジナルのものが作れるというのがぼくたちの特徴です。

C(オムライスS)：食生活が洋風化しているので、それに合ったメニューだということです。

C(おにぎり②O)：感謝の気持ちを込めていることです。

C(アラカルトO)：3つの味が楽しめるということです。

T：今出されたことを論点にして、明日話し合いの続きをします。最終決定は明日です。

5 授業を終えて

《討論の行方》

○翌日(11月13日)の討論会の論点

- ①食べる(自分たちのために使う)のか、支援する(人のために使う)のか
- ②お米のおいしさを味わうのか、味を付けて食べるのか
- ③食生活の変化に合わせて洋風化か、和風に戻して消費量アップか
- ④一つの味か、いくつもの味か
- ⑤オリジナルのものが作れるか、作れないか
- ⑥感謝の気持ちを込めるのか、自分たちだけか

○討論の行方 ～学年通信「蒲公英」より抜粋～

翌 13 日の討論会は、前日設定した論点に沿って進行しました。まず、①については「食べる」と「支援」の両方に使うことになり、「食料支援」が何 kg かをゲットする権利を得ました。次に論点②では、「味付け」のみが採用され、この段階で「おにぎり①」が脱落しました。続く論点③④では、ともに「オムライス」が対象となることから、論点を選択してもらい、④で争うことになりました。結果は「いくつもの味」だけが支持され、「オムライス」が脱落しました。さらに論点⑤では、「オリジナル」が支持を集め、「アラカルト」が脱落、「おにぎり②」と「手巻きずし」が採用されることになりました。

いよいよ米の分配です。3 グループの要求量は 32.5kg で、まだ 7.5kg オーバーしています。食料支援グループは、子どもたちの飢餓を問題にしたことがみんなの心を動かし、全量の半分に近い 12kg を獲得しました。おにぎり②グループは、のり以外の具は各自持ち寄るということで 5 kg、手巻きずしグループは、すでにネタを落とす努力をしているということで 8 kg 獲得しました。あとは、実現の時を待つのみです。

討論が終わった後の感想です。

□手巻きずしをやることになったのがおどろいた。好きな具を入れるオリジナルが役に立った。前の賛成か反対でやった話し合いよりもいっぱい発言できた。実行するのをがんばる。(手巻きずし・K)

□討論会は2回目だから1回目に比べ今の方がいっぱい発言できた。私のグループが残ってうれしいでした。1回目の討論会も勝ちました。討論をやっていくうちにだんだんなれてきたから、2回目は1回目より発言できたんだと思います。3回目の討論会をするときは、もっと言えるようにがんばります。(おにぎり②・F)

□この前の討論会は賛成か反対かを争う討論会だったけど、今のはいくつものグループに分かれての討論会だったので、前やったのよりむずかしかった。何を言えばいいのかよく分からなかった。2回目だったけど、意見もそんなに言えなかったし、きんちょうした。でも1回言ったらけっこうすっきりした。私たちのグループは7人だったけど、負けてしまったのがくやしかった。(おにぎり①・K)

□10キロもとれないと思っていたけど、12キロとれてよかったです。今回は、

- 1回も発言できませんでした。でもしっかり聞けたと思ったので、評価は2にしました。(食料支援・K)
- 今日、総合の時間に討論会をした。この前の大討論会では1回も手を挙げられなかったけど、今度の討論会では手を挙げられたのでよかった。(おにぎり②・T)
- 負けてくやしすぎる。意見まあまあ言えたのに。でも、支援についてはちょっと賛成かな。(アラカルト・M)
- 私たちが残れなくて残念だったけど、おにぎり②が残ってくれてよかったです。それに、前と同じで楽しかったです。(おにぎり①・H)
- オムライスが負けたのはくやしかったけど、支援には賛成だったので勝ってくれたのはうれしい。もう一度やるときは、言うことをしっかり決めてからやりたい。(オムライス・S)
- オムライスを作ることはできなかった。それに、自分の意見を言えなかった。生産調整の討論会の時よりむずかしかった。相手のチームは5つもあって反撃されたら何も言い返せなかった。(オムライス・I)
- 今回も負けてくやしかったけど、無事に決まってよかった。自分たちのアイデアではなかったけど、楽しく仲良く食べたいです。(アラカルト・Y)

《授業について》

○成果と課題

- 担任にとって一番の成果は、取り組みを通して学級集団が育ってきたことである。そのことは、討論が終わった後の子どもたちの感想によく表れている。そうした空気の中で、普段自分から挙手することのない「アラカルトM2」や「手巻き寿司N」が討論に参加できたことは、大きな喜びである。
- 本時のねらいのうち、「米の使い方について、考えのもとになった根拠を示しながら、みんなに分かりやすく提案できる」は、各グループともよく工夫して目標を達成できたと思う。「他のグループの主張と自分の主張を調整しながら意見が言える」については、課題が難しいという点を差し引いても、議論がうまく噛み合っているとは言えない。これは、「考えのもとになった根拠」が真に自分のものになっていないことに起因すると思われる。
- 研究主題の「意欲」については、活発に活動していたという表層的なレベルはともかく、個々の子どもについて詳細な分析はできていない。討論で発言がなかった子どもが、「しっかり聞けたと思ったので、評価は2」だと自己を肯定的に評価している場合もある。子どもの感想を見ると、次の活動につながる思いを書いたものが多い。「意欲的な子ども」に近づく一歩であったととらえたい。

○講師の先生からの助言

- 子どもたちの提案資料がすばらしかった。本に書いてあることなどを丸写しするのではなく、要点を簡潔に示しているのがいい。高学年になると身につけてほしい力が、育っている。
- 子どもたちの発表の仕方がすばらしかった。資料を読むのではなく、自分の言葉で書いた発表原稿を用意し、それを覚えて提案していた。内容が自分のものになっていないとできないことだ。
- 提案の後で討論の論点を子どもたちが出したのには驚いた。とても高度なことなので先生が整理してやればいいと思っていたが、子どもから出るのはすごいことだ。
- 子どもをその気にさせる環境設定や、話し合いにおける教師の助言のタイミングと内容が適切だった。子どもの育ちから見て、話し合いの司会を子どもに任せてもよかったのではないか。

《資料》



都祁小学校5年・学年つうしん

蒲公英

2003.12. 19 (金)

No. 61



みんなで創った「手巻き寿司パーティー」

二十分休みに、家庭科室の黒板に「手巻き寿司パーティー」と書いた。次、昼休み飾り付けをした。つるをはったりした。その時、幸田くんのお母さんと小百川くんのお母さんと北出くんのお母さんが来てくれて、ご飯を炊いたりしてくれた。五・六時間目が手巻き寿司パーティーだったので、そうじが終わって家庭科室に行った。みんなでおしゃべりした。次に、「少年時代」を聞いてもらい、すごろく、カルタ、お手玉などをして遊んだ。



今谷沙希

今日は、いよいよ寿司パーティーだ。余分にマヨネーズを買わなければならなかった。いらなくなつたのは、きゅうりだ。買い物にたけよしに行った。しかし、カジキマグロがなかった。だからサーモンとふつうのマグロを買った。マヨネーズも安いのがあった。ほとんど予想通りだった。帰って、冷蔵庫に入れた。昼休みに魚をさばいたりした。そして、五時間目が始まったところでみんなが来た。そして、食べた。「少年時代」も聞いてもらったりした。とても楽しかった。



幸田正則

12月16日の手巻き寿司パーティーは、とても楽しい会になった。楽しさの秘密は、何



よりもおいしいお寿司が食べられたからだ。写真がすべてを語っている。しかし、もっと大事なことがあった。それは、みんなが力を合わせて、このパーティーを創ったということだ。



十二月十六日に五年生で手巻き寿司パーティーをした。五・六時間目を使って、いろいろなことをした。手伝いに来てくれた人もいた。幸田さんと北出さんと小早川さんが手伝いに来てくれた。私は、お楽しみ係で司会をしなければならなかったのだ、はじめの言葉を言いました。もう、お寿司の用意がしてあった。そして、お寿司の説明をしてくれた。そして、のりは一人二枚で、さっそく食べ始めた。そして、食べ終わったら後片づけをした。そして、音楽室に行ってもらって、「少年時代」の合唱と合奏を聞いてもらった。そして、教室に帰ってもらって、昔の遊びをした。そして時間になったので、終わりの言葉と、手伝ってくださった三人にお礼を言いました。とても楽しかったです。

村田里美



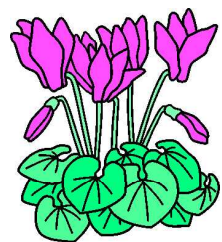
今日、五・六時間目に手巻き寿司パーティーがありました。私は勉強クラブで、「昔の遊び」のことをまかされていきました。とっても楽しみにしていたのですが、小西さんと福西さんが来れなくなってとっても残念でした。まず最初に、山本さんがお手伝いに来てくれた人にお礼を言いました。次に、いよいよ手巻き寿司を食べました。幸田君、野田君、小早川君の三人に食べ方（作り方）の説明してもらって食べました。たまご、きゅうり、ツナマヨを一つ目に入れて、二つ目はサーモンを入れてツナマヨを抜きました。その後、かたづけをしました。それで、「少年時代」を聞いてもらいました。合唱も合奏もうまくいきました。最後に、昔の遊び（お手玉、けん玉、すごろく、カルタ）をしました。私はずつとカルタをしていました。なかなか終わらなくて、少し時間がすぎました。とてもおいしく楽しいパーティーでした。

大西佑季



当日は用事などで来ていただけなかったけど、小西さんと福西さんに招待状を書いて届けた人がいる。お母さんたちにお手伝いをお願いするチラシを作った人がいる。お米を買ってくださいというチラシを作った人もいる。寿司のネタの値段を調べた人がいる。パーティーのプログラムを考えた人がいる。……そうした準備を重ねて、16日を迎えた。当日もまた、それぞれにパーティーを支える仕事を分担した。紹介した日記には、その様子がよく表れている。「おいしく楽しいパーティー」は、こうしたみんなの協力によって実現したのだ。

2学期が終わる。4月はじめに、「タンポポのようなクラスを作ろう」と言った先生の言葉を覚えているだろうか。一人ひとりが精一杯自分を発揮し、クラスが輝いている。季節は冬を迎えたけれど、私たちのクラスに今やっと1輪のタンポポが開こうとしている。先生は、そのことがうれしい。



■授業記録を読む「文学」■

2004年度 第6学年 国語科

1 指導案 ー ー 第6学年 国語科学習指導案 ー ー

2004年10月13日(水) 第4校時
男子11名、女子13名 計24名
指導者 教諭 草尾佳秀

1 単元名 生き方や考え方を読み取ろう

2 目標

- (1) 自分の考えを広げ深めるために、同じ作者のシリーズや「命」というテーマで本を読もうとする。【関心・意欲・態度】
- (2) 命についての自分の考えを、経験や本で読んだことを事例として入れながら、組み立てを考えて感想を書くことができる。【書くこと】
- (3) 登場人物の生き方や考え方を、文章の叙述に即しその言葉や行動から読み取るとともに、作者の考えと自分の考えを対比したり、自分の命のあり方(生き方・考え方)にまで考えを巡らせることができる。【読むこと】
- (4) 優れた表現や叙述に着目してそれが表している世界をとらえ、語感や言葉の使い方について関心を持つことができる。【言語事項】

3 指導について

- 本教材「海の命」は、登場人物「太一」の少年期から始まり、青年、壮年になるまでの生涯が、6つの場面構成で描かれている。それぞれの場面を貫いて流れているものは、一人の少年の、父親たちが生きた海に寄せる熱い思いであり、父の死を乗り越え、父をしのぐ漁師を目指した成長の姿である。つまり、「海のめぐみ」や「千匹に一匹」に象徴される父や与吉じいさ・太一の言動に着目すれば「自然と人間の共生」という考え方を、太一の一生に注目すれば様々な登場人物との関わりを通して「一人の人間の成長する姿」を読み取ることのできる教材である。登場人物の言動のみならず情景描写な

どの優れた表現から、主人公の考え方や生き方に触れる学習を通して「海の命」とは何かを追求することができるだろう。そうすることで、児童が自分の「生き方」「命」というものを改めて考えるきっかけとしていくことができる教材である。同時に扱う補助教材「山のいのち」に表されている「自然との共生」「命の連鎖」「人間の成長」といった「命」の視点の考え方は、それをさらに確かなものにしていくものと思われる。

- 本学級の児童は、『はだしのゲン』を何度も読み返すなど読書には興味を持っているが、文学作品をじっくりと読む経験は総じて乏しい。「読み」の授業においては、感覚的な読み取りが多く、言葉や文脈を大事にしながらいねいに読みを深める力が不十分である。これは、落ち着いた雰囲気の中で文学と向き合えるような授業作り・学習集団作りができていない教師の問題であると反省している。

そこで、本単元を指導するにあたっては、言葉にこだわった授業と学習集団作りを通して個々の子どもの学びの意欲を高めることをテーマにして取り組んでいきたい。

- 児童の実態から、「鍛える」学習指導と「育てる」学習指導の2段階の指導を設定した。本校の研究主題「意欲的に学ぶ子どもを育てる学習指導」がめざす子ども像は後者の中にあるが、そこに至る不可欠の過程として前者を位置づけたい。

「海の命」は、「鍛える」学習指導段階の教材として扱う。叙述に即して読み、登場人物の心情や考え方や情景について想像したことを書き込み(書き出し)、交流する時間を十分に取りたい。特に、「叙述に即して」(換言すれば、「根拠を明確にして」ということを絶えず意識しながら指導に当たりたい。1時間の授業においては、個の読みを鍛える時間と、交流を通して個の読みを深める時間を意識的に設定し、とりわけ苦手意識を持つ子の学習意欲に留意していきたい。また、個々の読みや交流の中で深められていった読みを自分のものにするために、各場面(1時間の学習)を「太一の日記」の形にまとめる活動を取り入れたい。これによって読みの主体化をはかれるとともに、次教材「山のいのち」を一人読みする際の力につながると考える。

「育てる」学習指導段階の教材として、「山のいのち」を位置づける。ここでは、「海の命」の学習を生かした一人読みを基本とする。読みの視点(みんなで深めたい課題)を設定し、各自の読みを叙述に即して交流し合う学習にしたい。

4 指導計画(全11時間)

次	時	主な学習活動	評価規準	評価	指導
---	---	--------	------	----	----

				方法	形態	
一	1	○題名、全文を読み、心に残ったことを書く。	○題名の持つ意味や登場人物の生き方・考え方について感想を持つことができる。【読む】	記述	一斉 個	
	2	○感想を交流しながら、読み味わうための学習計画を立てる。 「命」ってなんだろう。	○主人公の生き方・考え方について読み取り、自分の生き方について考える学習計画を立てようとしている。【関心・意欲・態度】	記述 発表	一斉	
二	3	○海に対する太一の強いあこがれや、村一番のもぐり漁師だった父に対する太一の尊敬の気持ちを読み取る。 (場面①)	○太一の海へのあこがれ、父への尊敬、与吉じいさに弟子入りする時の決意、母への労りの気持ちなど、太一の成長を周りの人物との関わりから読み取ることができる。【読む】	記述 発表	個 一斉	
	4	○与吉じいさに弟子入りした太一の気持ちや、太一の成長を喜ぶ与吉じいさの気持ちを読み取る。(場面②③)	●~~~~を「太一の日記」に書くことができる。【書く】 ●~~~~優れた表現を見つけ、サイドラインを引くことができる。【言語】	記述	個 一斉	
	5	○母の心配をよそにたくましく成長する太一の姿を、その少年の頃からの夢とつなげながら深くを読み取る。(場面④)		記述	個 一斉	
	6	○太一が巨大なクエにもりを打たなかった気持ちを深く読み取り、太一の成長について感想を話し合う。(場面⑤)			個 グループ 一 斉	
	7	○全文を通して「海の命」という題名が表しているものについて考えを深める。(場面⑥)	○~~~~太一の成長を周りの人物との関わりから読み取り、主人公の生き方について自分の考えを深めようとしている。ことができる。【関心・意欲・態度】	記述 発表	個 一斉	
	本					
	時					
三	8	「山のいのち」 ○作品を一文に要約する。「(主人公)が[A]によって[B(する)]物語」 ○要約文を交流し、読みの視点を持つ。	○作品の内容を一文に表すことができる。【読む】 ○要約文を交流することになり、読みの視点を持つことができる。【読む】	記述 発表	個 グループ	
	9	○読みの視点に沿って、その根拠となる表現や叙述を見つけ、心情や考え方を書き込む。	○要約文に沿ってその根拠となる表現や叙述を見つけ、心情や考え方を書き込むことができる。【読む】	記述	個	
	10	○特に視点に沿っていると思われる叙述を選んだり、その心情や考え方について交流したりしながら、視点についての考え方を深めていく。	○特に視点に沿っていると思われる叙述をグループの話し合いで選んでいる。【読む】	様子 発言	グループ 一 斉	
四	11	○命のあり方(生き方・考え方)やそれに対する自分の考えをまとめる。	○「命」について考えたこと感じたことを、自分の言葉で組み立てを考えて書くことができる。【書く】	記述	個	

5 本時案



(1) 目標

- ◎夢であったクエを仕留めなかった太一的心情を読み取ることができる。
- 太一の気持ちが表れているところを見つけることができる。
- 太一の心情を想像して「太一の日記」に書くことができる。

(2) 展開

主な学習活動	教師の支援と留意点	評価
1 本時の学習課題をつかむ。	<ul style="list-style-type: none"> ・前時学習を想起させ、最初の小課題(20kgのクエを捕らなかったわけ)を提示する。 ・お父のかたきをうちたいという太一の夢を押さえる。 ・全員がクエの様子をつかめるように読ませる。 	
<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; display: inline-block;">なぜ、太一は大きなクエをとらなかったのだろう</div>		
2 一人読みをしながら太一の気持ちが表れているところを見つけ、気持ちを書き込む。	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉が見つからない児童については個別指導をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・太一の気持ちが表れているところを見つけることができる。 (サイドライン)
3 書き込みをもとに、太一の気持ちを話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・グループで交流して、全体でさらに深め合う。 ・ふっとほほえみ、もりを引いた時の太一の気持ちを吹き出しに書き込む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・夢であったクエを仕留めなかった太一的心情を読み取ることができる。 (ワークシート)
4 第5場面の出来事を「太一の日記」に書く。		<ul style="list-style-type: none"> ・太一の心情を想像して「太一の日記」に書くことができる。 (ノート)
5 学習のまとめをする		

2 授業記録

学 習 活 動	T：指導者の発問・指示 C：児童の活動
課題をつかむ	<p>T：前時の場面で、20 キロぐらいのクエに興味を持ってなかったとありましたが、どうしてですか。</p> <p>C：父を破った瀬の主を求めていたから。</p> <p>T：今日の場面を読んでください。</p> <p>C：(音読)</p> <p>T：書き出し部分の「夢」の中身をお話してください。</p> <p>C：父に代わって瀬の主を仕留めること。</p> <p>C：もぐり漁師になること。</p> <p>Cn①：わかりません。</p> <p>C：父を殺したクエを見つけること。</p> <p>T：追い求めていたクエの様子を書いている所に線を引いてください。</p>
	<p>C：(作業)</p> <p>T：発表してください。</p> <p>C：ひとみは黒い真珠のようだ。</p> <p>C：刃物のような歯。灰色のくちびる。</p> <p>C：全体は見えない。150 キロはゆうにこえている。</p> <p>C：岩そのものが魚のようだ。</p> <p>C：えらを動かすたびに水が動く。</p> <p>Cn②：青い宝石の目。</p>
一人読みをする	<p>T：やっとその時を迎えたのですね。ところが、太一はそのクエを捕らなかつたのですね。「なぜ、太一は大きなクエをとらなかつたのだろう」というのが、今日のテーマです。</p>
	<p>T：太一の気持ちが表れていると思う所に線を引いて、その横に太一の気持ちを書き込んでください。</p> <p>C：(作業)</p> <p>T：そこまでにして、近くの4人で机を合わせて、テーマについて考えるために太一の気持ちを出</p>

話し合う

し合ってください。

C : (グループで話し合い)

T : おいてください。時間が迫っていますので、代表して〇〇さん発表してください。

C : …(録音聞き取れず)

T : 17 ページのところで話したんですね。同じところで話し合ったグループありますか。

T : どうぞ。

C : この魚を殺さなければ村一番の漁師になれないけどこの魚を殺してはいけない…。

T : 太一はどこで変わったの。

C : この辺り。(教科書のページを指さす)

T : 今日は「この辺り」ということで置いておきます。

T : 次のページを中心に話していたグループ、ちょっと聞かせてください。

C n③ : 瀬の主がおとうに見えたから。

T : その部分が前のページとつながっているのですね。

T : 太一にとって、本当の一人前の漁師になるというのはどうすることなんですか。

C : 大きなクエを捕ること。

T : その気持ちが変わったんですね。C nは、その部分を短く話しかえてくれたんですね。それをもう一度詳しく話しかえてください。(ワークシート配布)

C : (ワークシート書き込み)

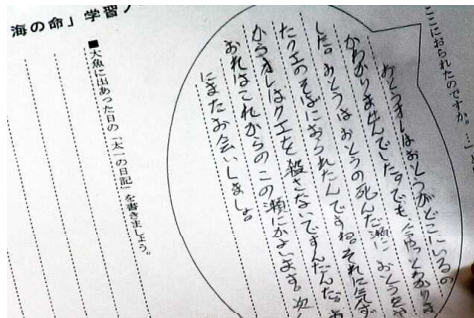
T : 時間が来ました。みんなが書いてくれたことは、明日の授業通信で紹介します。

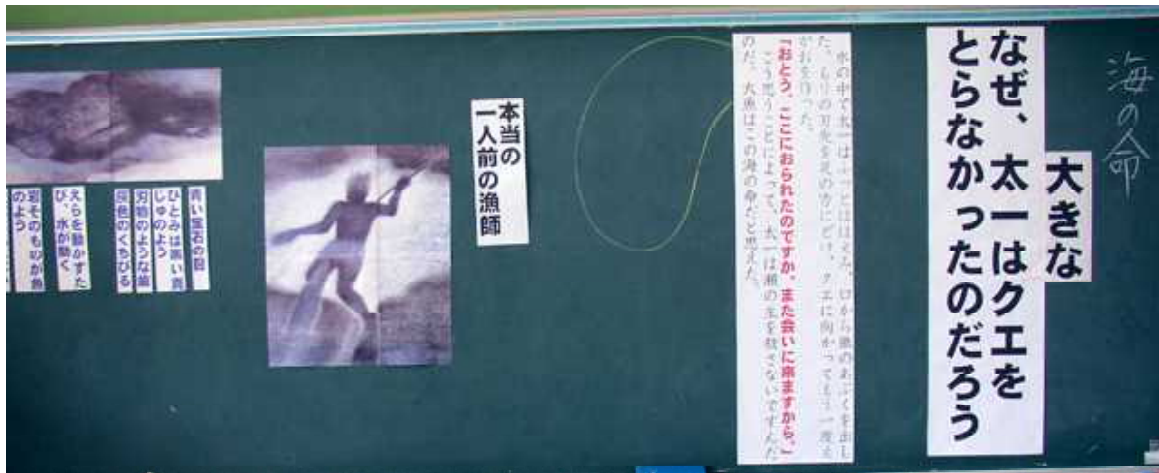


書き込みをする



(板書)





3 授業を終えて

《前時場面の「太一の日記」》

■ 瀬にもぐり続けてほぼ1年がすぎました。ぼくは、与吉じいさに教えてもらって、ついにおとうのもぐっていた海にもぐっています。20 キロぐらいのクエもいました。でも、もっと大きい瀬の主をとります。おとうがとれなかった瀬の主をぼくがとります。おとうをこえます。だからこれからも見守ってください。与吉じいさとおとうと2人で。おとうが死んでしまって誰ももぐり漁師がいなくなったので、アワビもウニもたくさんいました。でも今はウニもアワビもとりません。ぼくが求めているものは、大きい瀬の主なので。だからずっとこの海で見守っていてください。

■ 瀬にもぐるようになってもうすぐ1年がたつ。これまでを振り返ると、いろんな事が頭をよぎる。おとうと与吉じいさは海に帰ったし、おかあはオレのやっていることに不安を抱く時期もあった。それにしても、おかあの言葉には驚いた。「おまえが、おとうの死んだ瀬にもぐると、いつ言い出すかと思うと、わたしは、おそろしくて夜もねむれないよ。おまえの心の中が見えるようで。」あの時おかあは悲しんでいた。でもオレはどうしてもおとうの夢をかなえたかったんだ。与吉じいさもいるし、あの海にいとすごく安らぐんだ。でも、おかあをほっておくわけじゃない。オレはおかあも自分のそばに置いておきたかった。だからおかあの悲しみを背負った。それだけは伝えておきたかった。おとうも好き。与吉じいさも好き。おかあも好き。みんなありがとう。

《「おとう、ここにおられたのですか。…」の詳しい話しかえ》

- おとうは、ここで瀬の主と戦ったのですね。ここで瀬の主を殺してしまえば、おとうに会えなくなる気がするので殺せません。
- おとう、やっと会えたなあ。オレは、やっとおとうの海にこれたよ。おとう、おとうがクエになって出てきてくれた。それだけでオレはうれしいよ。オレの

ために来てくれたんだよな。オレはこの日をずっと待ってた。おとうのかたきをとりたかった。でも、おとうだから、おとうがせっかく来てくれたから、殺せないよ。ごめんな。

- おとう、オレはおとうがどこにいるのかわかりませんでした。でも、今やつとわかりました。おとうは、おとうの死んだ瀬に、おとうを破ったクエのそばにおられたんですね。それに気づいたからオレはクエを殺さないですんだんだ。おとう、オレはこれからもこの瀬に通います。次来る時にまたお会いしましょう。

《大魚に出会った日の「太一の日記」》

- 今日、海草のゆれる穴のおくに青い宝石の目を見た。おとうを殺したのは、この青い目の魚なのか。もぐると、ひとみは黒い真じゅ、刃物のような歯、灰色のくちびる、150 キロをこすような魚だった。鼻づらに向かってもりをつきさすが、クエは動こうとはしなかった。その時、大魚は海の命だと思えた。しかも、おとうも近くにいたような気がした。だから、瀬の主を殺せなかった。
- 今日、ついにおとうを破った瀬の主に会った。150 キロはゆうにこえていると思う。オレは、「これがおとうを破った瀬の主か。絶対にしとめてやる」と思った。オレが瀬の主をしとめる。おとうが死んだとき、そう決心した。でも瀬の主は抵抗せず、おだやかな目でオレをじっと見つめるだけだった。そのうちオレは、何だかこの瀬の主がおとうだと思えてきた。おとうが海に帰って、おとうが死んだ瀬で瀬の主となったんだ。オレは結局、瀬の主を殺せなかった。瀬の主を殺せば、おとうを殺しているような感じがするからだ。瀬の主を殺さなければ一人前の漁師になれない。一人前の漁師を逃してでも、瀬の主はしとめない。おとうのところへまた行こう。
- 今日、ずっとぼくがさがしていた瀬の主に会えた。大魚は、まるで岩のような魚だ。いや、岩が魚になったようだ。ぼくは、絶対つかまえてやろうと思った。父をこえる。鼻づらに向かってもりを出した。でも、クエは動かない。そうしたままで時間が過ぎた。ぼくはだんだんいらだってきた。永遠にここにいられるような気もした。うかんでいって、またもどった。でも魚はここにいる。おだやかな目だった。ふっと気がゆるんだ。この魚はただの魚じゃない。もう、とろうという気さえその魚の目にすいこまれそうだ。この魚は、おとうだ。やっと会えましたね、おとう。
- 今日もおとうの瀬にもぐりに行った。ぼくは、海草のゆれる穴のおくに何かを見た。それは、全体は見えないのだが、150 キロはゆうにこえているクエだった。そのクエを見たとき、ぼくは「このクエをさがしていたんだ」と思った。このクエは瀬の主、おとうと戦ったクエなのかも知れない。「絶対とってやる。おとうのかたきをうってやる。」そう思った。だが、クエは全然動かない。ぼ

くは、「この瀬の主だ。海の命だ。」と聞こえた。だから、ぼくはこの瀬の主をとらなかった。この海の命をとらなかった。

- 今日、追い求めていた瀬の主に会った。ぼくは夢のようだった。でも、瀬の主はおとうのように思えた。おとうが海の中でぼくのことをずっと見守っていてくれたなんて、思いもしなかった。うれしかった。おとうのためにも、この海をこれからも大切にしていきます。おとうも見てください。海の中から…。

《最終場面での「太一の日記」》

- ぼくは昔、漁師になるために色々なことを学んだ。与吉じいさんは、「千びきに一びきでいい。千びきいるうち一びきだけつれば、ずっとこの海で生きていけるよ。」と教えてくれた。ぼくには目標があった。「瀬の主をとること」だ。実際に瀬の主に会った。でも瀬の主は、この海の命だった。だから、殺してはいけなかった。それに、瀬の主はぼくが生きていく上で必要な魚ではなかった。それにあの時殺していたら、ぼくは海の命をこわすことになっていた。だから、瀬の主をぼくのお父さんだと思って、殺さなかった。このことはだれにも言わなかった。だから今もあの海は変わらずに、海の命もこわれず、ぼくが漁師をしていたあの海のままだ…。

《授業について》

○成果と課題

- 個々の読みや交流の中で深められていった読みを自分のものにするために取り入れた「太一の日記」は、学習の主体化という点で成果があったように思う。各人の「日記」を授業通信で還元することで、さらに読みが深くなっていった。そして、一連の過程において、授業者が子どもの読みの質を把握できていたことが、子どもの学習意欲を高めるのに役立ったと思う。

- 授業の検証軸に設定していた児童C nの1時間を追ってみたい。

導入時に、太一の夢について質問したところ、「わかりません。」(授業記録のC n①)と答えている。この時点ではまだ授業に集中できていない。

それに続く学習活動で、大魚の様子が書かれている箇所にも傍線を引いた。机間指導時に声かけをしたことで、課題と向き合うことができた。C nは、「青い宝石の目」にも傍線を引き、私に同意を求めた。私は肯き、その場を離れた。このことが、C n②発言の布石になっている。「青い宝石の目」が最後まで残った偶然も手伝って、C nは自ら挙手した。

自ら発言し、認められたことで、C nの集中力と学習意欲は高まった。太一の気持ちが表れていると思う所に線を引く活動では、「おとう、ここにおられたのですか。」にも傍線を引いた。そして、その後のグループの話し合いに積極的に参加し、グループを代表して意見を発表した。C n③発言がそれ

である。「瀬の主がおとうに見えたから。」という読み取りは、本時の課題の核心に迫るものである。

授業の最後に書いた詳しい話しかえには、「この瀬の主を殺してしまえば、これでもうおとうに会えなくなるから。」と記した。「詳しい話しかえ」であるためには、「会えなくなるから」の後に省略されている部分を書くことこそが大事なのだが、現段階では将来的な課題として残したい。

- 本単元の指導を通して、C nをはじめとする「読み」に苦手意識を持つ子の学習意欲の高まりを検証しておきたい。結論から言えば、苦手意識を持つ子とそうでない子との読みの力の差は、かえって大きくなったように感じる。しかしそれは彼らの学習意欲が低下したということではなく、今回の学習が苦手意識を持たない子らにより効果的であったということだと考えている。事実、苦手意識を持つ子の中に格段に読みが深まったと評価できる子もおり、意欲的な学びの具体的な姿として一定の成果はあったと言える。ただ、C nに限って言えば、1時間の授業の検証でも明らかなように、授業の形態や手法よりも、個別指導の如何が学習意欲を左右している。より根源的な課題が浮き彫りになった。

また、「きたえる」学習指導で学習意欲が高まったのに、「育てる」学習指導の段階に入った途端に、それが萎えてしまうという子どもも少なからずいた。真に学びが主体化されるには、読みの力を付けるために「きたえる」と同時に、日常的に、学習の自律を図る(具体的には、計画する、継続する、見通す、構成するなどの力を付けること)ために「きたえる」学習指導を重ねることが大事だと思う。

2005年度 第6学年 国語科

1 指導案 — 第6学年 国語科学習指導案 —

2005年11月18日(金) 第4校時

男子12名、女子13名 計25名

指導者 教諭 草尾佳秀

1 単元名 表現を味わい、豊かに想像しよう (海の命)

2 目標

- (1) 情景や登場人物の心情や様子を想像しながら読むことに関心を持ち、同

じ作者のシリーズや「命」というテーマで本を読もうとする。【関心・意欲・態度】

- (2) 命についての自分の考えを、経験や本で読んだことを事例として入れながら、組み立てを考えて感想を書くことができる。【書く】
- (3) 登場人物の生き方や考え方を、文章の叙述に即しその言葉や行動から読み取るとともに、作者の考えと自分の考えを対比したり、自分の命のあり方(生き方・考え方)にまで考えを巡らせることができる。【読むこと】
- (4) 比喩表現をはじめ優れた表現や叙述を手がかりにして、情景を想像することができる。【言語事項】

3 指導について

- 本教材「海の命」は、登場人物「太一」の少年期から始まり、青年、壮年になるまでの生涯が、6つの場面構成で描かれている。それぞれの場面を貫いて流れているものは、一人の少年の、父親たちが生きた海に寄せる熱い思いであり、父の死を乗り越え、父をしのぐ漁師を目指した成長の姿である。つまり、「海のめぐみ」や「千匹に一匹」に象徴される父や与吉じいさ・太一の言動に着目すれば「自然と人間の共生」という考え方を、太一の一生に注目すれば様々な登場人物との関わりを通して「一人の人間の成長する姿」を読み取ることでできる教材である。登場人物の言動のみならず情景描写などの優れた表現から、主人公の考え方や生き方に触れる学習を通して「海の命」とは何かを追求することができるだろう。そうすることで、児童が自分の「生き方」「命」というものを改めて考えるきっかけとしていくことができる教材である。

なお、年間指導計画では、本單元においては「やまなし」を教材として扱い、3月に「学習したことを生かして」の中の1教材として「海の命」を扱うことになっている。本学級の児童に、みんなでじっくりと読み深める教材として「海の命」に出合わせたいという強い願いから、本單元において取り扱うこととした。

- 本学級の児童は、考えや気持ちを自分の言葉で表現するのが苦手な子が多い。そのため、「読み」の授業においても互いの読みの交流がなかなかできず、言葉や文脈を大事にしながらいねいに読みを深める授業が成立しにくい。2学期になって「総合」で取り組んだ「しばてん」で、一文立ち止まりから書き込みを始め、自分の気持ちを言葉にすることに努めてきた。

本單元を指導するにあたっては、言葉にこだわった授業と学習集団作りを通して個々の子どもの学びの意欲を高めることをテーマにして取り組んでいきたい。

- 本校の研究主題「意欲的に学ぶ子どもを育てる学習指導」を国語科の読みの力に即して考えると、私たちがめざすのは、通常の読書の形態である1回きりの読みにおいて、自らの考えや生き方の糧にしていけるような力を子どもにつけることだと考える。さらには、そうした本との出合いを自ら求める子どもに育てることだと考える。

「海の命」は、めざす子ども像に迫る力を鍛える学習過程と位置づけている。叙述に即して読み、登場人物の心情や考え方や情景について想像したことを書き込み(書き出し)、交流する時間を十分に取りたい。特に、「叙述に即して」(換言すれば、「根拠を明確にして」ということを絶えず意識しながら指導に当たりたい。1時間の授業においては、個の読みを鍛える時間と、交流を通して個の読みを深める時間を意識的に設定し、とりわけ苦手意識を持つ子の学習意欲に留意していきたい。また、個々の読みや交流の中で深められていった読みを自分のものにするために、各場面(1時間の学習)を「太一の日記」の形にまとめる活動を取り入れたい。これによって読みの主体化をはかり、読書活動において一人読みする際の力につなぎたいと考える。

4 指導計画(全9時間)

次	時	主な学習活動	評価規準	評価方法	指導形態
一	1	○題名、全文を読み、心に残ったことを書く。	○題名の持つ意味や登場人物の生き方・考え方について感想を持つことができる。【読む】	記述	一斉 個
	2	○感想を交流しながら、読み味わうための学習計画を立てる。 「命」ってなんだろう。	○主人公の生き方・考え方について読み取り、自分の生き方について考える学習計画を立てようとしている。【関心・意欲・態度】	記述 発表	一斉
二	3	○海に対する太一の強いあこがれや、村一番のもぐり漁師だった父に対する太一の尊敬の気持ちを読み取る。(場面①)	○ <u>太一の海へのあこがれ、父への尊敬、与吉いさに弟子入りする時の決意、母への労りの気持ちなど</u> 、太一の成長を周りの人物との関わりから読み取ることができる。【読む】	記述 発表	個 一斉
	4	○与吉いさに弟子入りした太一の気持ちや、太一の成長を喜ぶ与吉いさの気持ちを読み取る。(場面②③)	●~~~~を「太一の日記」に書くことができる。【書く】	記述	個 一斉
	5	○母の心配をよそにたくましく成長する太一の姿を、その少年の頃から	●~~~~優れた表現を見つけ、サイドラインを引くことができる。【言語】	記述	個 一斉

		の夢とつなげながら深く読み取る。 (場面④)			
本時	6	○太一が巨大なクエにもりを打たなかった気持ちを深く読み取り、太一の成長について感想を話し合う。(場面⑤)			個 一斉
	7	○全文を通して「海の命」という題名が表しているものについて考えを深める。(場面⑥)	○~~~~ 太一の成長を周りの人物との関わりから読み取り、主人公の生き方について自分の考えを深めようとしている。【関心・意欲・態度】	記述 発表	個 一斉
三	8	○同じ作者のシリーズや「命」をテーマにした本を読む。 ※読書は家庭学習で行う。	○ねらいに沿った本を選び、意欲的に読もうとしている。【関心・意欲・態度】	様子	個
四	9	○命のあり方(生き方・考え方)やそれに対する自分の考えをまとめる。	○「命」について考えたこと感じたことを、自分の言葉で組み立てを考えて書くことができる。【書く】	記述	個

5 本時案

(1) 目標


- ◎夢であったクエを仕留めなかった太一の心情を読み取ることができる。
- 太一の気持ちが表れているところを見つけることができる。
- 太一の心情を想像して「太一の日記」に書くことができる。

(2) 展開

主な学習活動	教師の支援と留意点	評価
1 本時の学習課題をつかむ。	<ul style="list-style-type: none"> ・前時学習を想起させ、最初の小課題(20kgのクエを捕らなかったわけ)を提示する。 ・お父のかたきをうちたいという太一の夢を押さえる。 	
<p style="border: 1px dashed black; border-radius: 10px; padding: 5px; display: inline-block;">なぜ、太一は大きなクエをとらなかったのだろう</p> 2 クエに対する太一の気持ちが表れているところを見つけ、話し合う。 (1)クエを仕留めたいと思い続けていた太一について。	<ul style="list-style-type: none"> ・太一がクエを仕留めたいという気持ちが感じられる言葉を見つけさせる。 ・クエを仕留めたいという気持ちが変わる箇所を見つけさせる。 ・言葉が見つからない児童につ 	<ul style="list-style-type: none"> ・太一の気持ちが表れているところを見つけることができる。(サイドライン)

<p>(2) クエに対する太一の気持ちの変化について。</p> <p>3 クエを仕留めなかった太一の気持ちを話し合う。</p> <p>4 第5場面の出来事「太一の記事」に書く。</p> <p>5 学習のまとめをする</p>	<p>いては個別指導をする。</p> <p>・ふっとほほえみ、もりを引いた時の太一の気持ちを吹き出しに書き込ませる。</p>	<p>・夢であったクエを仕留めなかった太一の心情を読み取ることができる。 (ワークシート)</p> <p>・太一の心情を想像して「太一の記事」に書くことができる。 (ワークシート)</p>
---	--	--

2 授業記録

学 習 活 動	T：指導者の発問・指示 C：児童の活動
<p>1 課題をつかむ</p>  <p>2 太一の気持ち</p>	<p>T：今日学習する5の場面を読んでください。</p> <p>C：(音読)</p> <p>T：今日のテーマは何でしょう。5の場面の中心になる課題です。</p> <p>C：なぜ太一は瀬の主を殺さなかったのかということだと思います。</p> <p>C：どうして太一は瀬の主を殺さないですんだのか。</p> <p>C：同じです。どうして太一は瀬の主を殺さないですんだのか。</p> <p>C：太一はなぜ、この大魚を海の命と思えたのか。</p> <p>C：太一と海の命の関係。</p> <p>C：太一はなぜクエをお父と思ったのか。</p> <p>C：なぜ太一は瀬の主をお父だと思ったのか。</p> <p>T：後半に言ってくれたことは、今日の授業の終わりにみんなで考えるテーマになります。1時間を通してのテーマは、最初の方で言ってくれたことです。(掲示) 「なぜ、太一は大きなクエをとらなかったのだろう」</p>



3 太一の気持ち



これを一緒に考えるのが、今日の課題です。

T：「追い求めているうちに、不意に夢は実現するものだ」とありますね。太一の「夢」とは何でしょうか。

C：父を破った巨大なクエに会うこと。

C：父を破った瀬の主をたおすこと。

C：父を破った瀬の主を見つけること。

C：父を破った瀬の主をたおすことだと思います。

T：「瀬の主」他にどんな言い方をしているの。

C：大魚。

C：巨大なクエ。

T：夢というのは瀬の主に出会うこと、たおすことではないですか。4の場面で、20キロぐらいのクエに出会うことはあったが興味を示せなかったということと関係しているんですね。

T：夢が実現するときが来たんですね。ところが、実際には殺さなかったわけですね。そこに至るまでには、心の揺れや迷いがあったはずだ。それが分かるころを教科書から見つけてください。

C：80ページの「こんな感情になったのは初めてだ」の段落です。

T：〇〇くん、こんな感情とはどんな感情？

C：…

T：ではもう一度、79ページの一番後ろの行から読んでください。

C：(音読)

T：「こんな」は、どこを指しているの？

C：「この大魚は自分に殺されたがっているのだ」

T：魚を捕るのを仕事にしている漁師が、そんなふうにするというのは、確かに気持ちの迷いを感じるよね。

T：さて、そんな気持ちになったきっかけって何？

C：「おだやかな目」だと思います。

T：その迷いが大きければ大きいほど、「太一は泣きそうになりながら、本当の一人前の漁師にはなれない」と思うのですよね。

T：太一にとって、本当の一人前の漁師になるというの



はどういうことですか。

C：父親を完全にこえること。

T：具体的に言うと。

C：父をたおした巨大なクエをたおすこと。

C：父をたおした瀬の主をたおすこと。

C：父を破った瀬の主を捕ること。

T：今言ってくれたことが父をこえることであり、本当の一人前の漁師になることだと考えてきたわけですね。その気持ちが揺れて、それに決着をつけたのはどの部分ですか。

C：ふっとほほえんだところ。

C：もりの刃先を足の方にどけたところ。

C：もりの刃先を足の方にどけたところ。

T：ふっとほほえんで、銀のあぶくを出したところでしょうね。その結果、もりの刃先をどけたのですね。

T：心の整理をつけたときに、「おとう、ここにおられたのですか。…」という心の中のつぶやきが出てくるのですね。その部分を詳しく話し変えてみましょう。
(ワークシート配布)

C：(ワークシート書き込み)

T：時間が来ました。一人だけ読んでもらって終わりにします。

C：おとうは、この瀬の主に破られたのだ。だけど、この瀬の主とともに、おとうは死んだ。もしかしたら、おとうはこのクエとともにいるかもしれない。あんなおだやかな目をしているんだから。おとう、ここにおられたのですね。また会いに来ますから。待っていてください。

T：では終わります。

3 授業を終えて

《初読の感想》

①初めて読んで心に残ったこと

「太一が瀬の主を殺さなかった」場面が最も多く 12 人。「なぜ太一はクエ(瀬の主)を殺さなかったのか」(2人)と、疑問として書いた子もいた。…この疑問

に対する自分なりの「答え」を見つけることが、学習を進めていく中心的な課題になる。

②お気に入りの文章は

- 水の中で太一はふっとほほえみ、口から銀のあぶくを出した。もりの刃先を足の方にどけ、クエに向かってもう一度えがおを作った。「おとう、ここにおられたのですか。また会いに来ますから。」こう思うことによって、太一は瀬の主を殺さないで済んだのだ。大魚はこの海の命だと思えた。(9人)
- この大魚は自分に殺されたがっているのだと、太一は思ったほどだった。これまで数限りなく魚を殺してきたのだが、こんな感情になったのは初めてだ。この魚をとらなければ、本当の一人前の漁師にはなれないのだと、太一は泣きそうになりながら思う。(5人)
- 太一はあらしさえもはね返す屈強な若者になっていたのだ。太一は、そのたくましい背中に、母の悲しみさえも背負おうとしていたのである。(3人)
- はだに水の感触がこちよ。海中の棒になって差しこんだ光が、波の動きにつれ、かがやきながら交差する。耳には何も聞こえなかったが、太一は壮大な音楽を聞いているような気分になった。とうとう、父の海にやってきたのだ。(2人)
- 「海に帰りましたか。与吉じいさ、心から感謝しております。おかげさまでぼくも海で生きられます。」(2人)
- 「千びきに一びきでいいんだ。千びきいるうち一びきをつれば、ずっとこの海で生きていけるよ。」(1人)

③「海の命」とは何だろう

- 巨大なクエ(11)・大魚(3)・瀬の主(7)… 21人
- 海にいる魚たち(2人)
- 魚がめぐんでくれる海(1人)

④「海の命」を1文要約すると

(A) が、[B] によって [C (する)] 物語である。

A … 太一(全員)

B/C…

- 与吉じいさの弟子になること/村一番(一人前)の漁師になる(11人)
- 瀬の主を父と思うこと/クエを殺さずに済んだ(8人)
- 父と与吉じいさ/村一番の漁師になる(1人)
- 海を自分の海にしたこと/父親たちが残してくれたものを知る(1人)
- 大魚に出合ったこと/父のことを思い出す(1人)
- もぐり漁師になること/巨大なクエに出合う(1人)

《前時場面の「太一の日記」》

- 今日、激しい潮の流れのところに 20 キロぐらいのクエを見かけた。けっこう大きかったが、あまり興味を持てなかった。なぜかという、ぼくが追い求めているのは、村一番のもぐり漁師だった父を破ったとても大物のクエだから、他の小さいクエは今ぼくが追い求めているクエではないからだ。早く父を破った巨大なクエを見たい。そして父のかたきをとりたい。
- おとうが死んだ瀬にもぐってほぼ1年がたった。毎日、魚を 20 匹とると、おとうの死んだ瀬にもぐる。20 キロぐらいのクエなら見かけるけど、ぼくはおとうをたおした瀬の主をたおすためにもぐっているのだから興味をもたない。1日もはやく、瀬の主を見つけてたおしたい。
- 父の瀬にもぐって約1年、あの瀬の主にはまだ出合えない。そのかわりに、20 キロぐらいのクエを見かけた。父が言っていた「海のめぐみだからなあ。」とは、このことだろう。でも、おれはあの瀬の主に出合いたい。この広い海でいつかあのクエをとって、父をこえる漁師になってやるんだ。

《「おとう、ここにおられたのですか。…」の詳しい話しかえ》

- おとう、ぼくはずっとおとうをさがしていました。今日、やっと会えましたね。とてもうれしいです。また会いに来ますから待っていてください。
- あのおだやかな目は、おとうと一緒にだった。やっぱり海におかえりになっていたんですね。安心してください。たおしたりはしませんから。また会いに来ます。待っていてください。
- おとうは水中で死んでしまったけど、最後までクエと戦っていたね。このクエは、海に帰ったおとうがこの瀬を守っている「海の命」みたいだよ。
- おとう、おとうはこのクエの中にいらっしやったのですか。また会いに来ますから。そこで待っていてくださいね。

《大魚に出会った日の「太一の日記」》

- 今日、ぼくの夢だった瀬の主に出あった。だが、巨大なクエの目を見たとき、おとうのことを思い出した。瀬の主を殺したら、もう本当におとうに会えないような気がした。しかし、この巨大なクエをとらなければ、本当の一人前の漁師にはなれないのだ。ぼくの心が数分ゆれた。ぼくは、クエを殺さなかった。なぜなら、巨大なクエはこの海の命だと思えたからだ。
- 今日、やっと求めていた瀬の主に出あった。あの父を破った瀬の主はやっぱり大きくて、勇ましかった。意外とおだやかな目だった。ぼくは、そのおだやかな目が父に見えてきて、瀬の主を殺さなかった。また父に会いに行こうと思った。

- 追い求めていたあの瀬の主にやっと出会えた。でも、殺せなかった。殺すつもりだった。でも、あの大魚のおだやかな目を見ると、父のかたきも、父をこえることさえも、もうどうでもいいようになってしまった。おれは、瀬の主を殺さないことによって父をこえる。瀬の主は、父の海の命だ。与吉じいさの海の命だ。おれの海の命だ。瀬の主がいたから、おれは、この道をえらんだんだ。
- 今日、大魚に出合った。これが、父を破った瀬の主だったのだろう。大魚を見ていると、父を思い出す。ぼくは、何度言っても同じ場所にいたクエをつかなかった。クエが父のように思えたからだった。
- 今回、父の瀬に潜って、ようやく父をたおした大魚に出合った。正直言って、おどろいた。だがうれしかった。だが、どうしても殺せなかった。なぜなら、あれほどまでにおだやかな目をされたら、殺すのにためらいが生じて殺せなかった。でも、後悔はしていない。

《授業について》

○成果と課題

- 個々の読みや交流の中で深められていった読みを自分のものにするために取り入れた「太一の日記」は、学習の主体化という点で成果があったように思う。各人の「日記」を授業通信で還元することで、さらに読みが深くなっていった。そして、一連の過程において、授業者が子どもの読みの質を把握できていたことが、子どもの学習意欲を高めるのに役立ったと思う。
- 初読の感想の時点で、子どもたちは物語の核心に迫っている。感想を書くポイントを示した上で読ませたことで、読みが深まったと考えられる。通常の読書力ということ言えば、子どもを意欲的に作品に向き合わせる効果的な方法だと思う。

ところが、場面ごとの立ち止まり読みをすると、読みの視点がブレたり、表層的な読みから深まらないことが多々あった。全体から部分を意味づけたり、前後の文脈から見通したりする力が十分に育っていない。高学年らしい学ぶことの楽しさを保障していくためには、大事な課題である。
- 1時間の授業について言えば、多少のリスクは承知の上で、もっと子どもたちに任せるべきであったと反省している。助言の先生からは、叙述に即して読みを深めていく授業であったと位置づけていただいた。しかし、言葉へのこだわりと教師の語りすぎが、かえって子どもの思考を妨げたと感じている。

《余録》

「海の命」は難しい。今回もまた、立松和平を超えることはできなかった。か

くなる上は、クエを喰ってしまおうーなどと変な決意を胸に、和歌山へ出かけた。うす造り、にぎり寿司、てんぷら、アラ煮、鍋のクエフルコース。美味なり。「海のめぐみだもんなあ。」……



2006年度 第3学年 国語科

1 指導案 — 第3学年 国語科学習指導案 —

2006年10月18日(水) 第4校時

男子12名、女子14名 計26名

指導者 教諭 草尾佳秀

- 1 単元名 場面の様子をそうぞうしながら読もう
教材名 ちいちゃんのかげおくり あまんきみこ作

2 目標

- (1) 言葉や表現に即して、場面の様子やその移り変わりを想像しようとする。
【関心・意欲・態度】
- (2) 叙述をもとに、場面の移り変わりや情景を想像しながら読むことができる。【読むこと】
- (3) 書かれている場面の様子や登場人物の心情がよく分かるように工夫して音読することができる。【読むこと】

3 指導について

- 本教材は、「かげおくり」という遊びを題材に書かれた、戦争への静かな抵抗の物語である。戦争は理由なく「いのち」を奪う。淡々とした文体ゆえに、なおのこと無垢な幼な子の透き通るような清い「いのち」を感じさせる。本文は、5つのまとまりから構成されており、特に最後の「それから何十

年」かたった町の様子は、現代に生きる私たちに平和の大切さと、それを守ることの尊さを示している。児童にとって戦争という時代背景の把握は難しいが、3つの「かげおくり」の情景を思い浮かべることで、その悲しさを十分感じさせたい。

叙述の面でも最初と最後の「かげおくり」が対照的に描かれ、場面構成がはっきりしていることから、ちいちゃん的心情の変化がとらえやすい。また、会話文が多く、その最後に「つぶやきました」「きき返しました」などの表現が多いことや、体言止めや現在形の文末表現が折り込まれた状況説明や情景描写によって、登場人物の心情に迫りやすく、音読することを通して情感豊かに読み浸ることのできる作品である。

- 本学級の児童は、低学年の頃から音読が得意な子が多い。語尾のはね上げや強調などの読み癖がなく、ほとんどの子が間違えずにすらすら読むことができる。声が小さい、口の開き方が足りない、文末が不明瞭になるなどの課題もあるが、これまでの学習活動で徐々に改善されてきている。

「きつつきの商売」では、子どもたちの得意分野を生かすために、会話文の語尾の上げ下げに着目して、読み取った内容を音読表現する活動に取り組んだ。そして、これを機に表現読みのドリル学習(間、文末の上げ下げ、速さ・大きさ)も採り入れた。さらに、「三年とうげ」では、教材文から得た驚きや感動を音読表現することをねらいとした発表会を行った。また、朝の会の時間を利用して、好きな詩を朗読したり暗唱したりする活動にも意欲的に取り組んでいる。こうした活動を通して、読解や音読に対する子どもたちの興味・関心は少しずつ高まってきている。

- 本校の研究主題「確かな読みの力を育てる学習指導」に迫る具体的な取り組みとして、音読をその中心に据えたいと思う。もとより、よい音読はしっかりとした内容の読み取りがなければ成立しない。読み取りと音読表現を一体化した活動を展開することで、「確かな読みの力」をつけていきたい。

本単元の指導に当たっては、ちいちゃんに寄せる思いを自分なりの読み声に表しながら、この作品の持つ主題へと迫ることができるように、「おうちの人を招待して(参観日)、心を込めた音読劇を聞いてもらおう」という活動題を設定し、学習の目的意識や相手意識をはっきりと持たせたい。

4 指導計画(全11時間)

次	時	主な学習活動	評価規準	評価方法
一	1	○題名、全文を読み、感想を書く。	○好きなところや心に残ったところを感想に書いている。	記述

	2	<p>○音読劇を発表するめあてを持ち、方法や音読劇に招待する相手について話し合う。</p> <p>○漢字練習・語句の確認をする。</p>	<p style="text-align: center;">【読む】</p> <p>○読みの学習に意欲的に取り組もうとしている。</p> <p style="text-align: center;">【関心・意欲・態度】</p>	<p>観察 発表</p>
二 本 時	3	○家族そろって仲むつまじくかげおくりするちいちゃんの様子を読み取りながら音読する。(場面①)	○場面の变化や情景を表す叙述をもとに、心情を想像しながら読んでいる。 【読む】	<p>記述 発表 音読表現 相互評価</p>
	4	○父の出征後、兄と楽しくかげおくりをするが戦火がはげしくなりそれもできなくなっていく様子を読み取りながら音読する。(場面①)	○書かれている場面の様子や登場人物の心情がよくわかるように工夫して声に出して読んでいる。 【読む】	
	5	○激しい空襲のため、母と兄にはぐれ、ひとりぼっちになってしまったちいちゃんの様子や気持ちを読み取りながら音読する。(場面②)	○想像を膨らませる表現に着目し、その意味を考えている。 【言語】	
	6	○ひとりぼっちになり母と兄の帰りを信じてひたすら待ち続けるちいちゃんの様子や気持ちを読み取りながら音読する。(場面③)		
	7	○懐かしい声を聞きながら、体がふらふらする中でたった一人でかげおくりをし、命を失ったちいちゃんの様子や気持ちを読み取りながら音読する。(場面④)		
	8	○公園で幸せそうに遊ぶ子どもたちの様子から平和の尊さを感じながら音読する。(場面⑤)		
三	9 10	○役割分担をして、読み方を工夫しながら音読発表会に向けての練習をする。	<p>○自分たちの読みたい場面を選び、熱心に練習している。</p> <p style="text-align: center;">【関心・意欲・態度】</p> <p>○前時までの学習を生かして練習している。【読む】</p>	様子

11	○音読発表会をする。 〈授業参観〉	○場面の様子がよく伝わるように工夫して音読している。 【読む】	音読表現
----	----------------------	------------------------------------	------

5 本時案

(1) 目標

○かげおくりをする4人の様子や気持ちを考えながら、会話文を音読することができる。

(2) 展開

学習活動	教師の指導と支援	評価
1 本時の学習課題をつかむ。		
<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> かげおくりをする4人の様子や気持ちを考えながら、会話文を音読しよう </div>		
2 本時の学習場面を読む。	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の場면을音読させ、学習範囲を確認させるとともに、課題に対する見通しを持たせる。 	
3 それぞれの会話文がだれの言葉かを読み取る。	<ul style="list-style-type: none"> ・「 」のあとの“ト書き”を手がかりに、声の重なり部分を正確に読ませるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・誰が言った会話文かを読み取ることができる。 (ワークシート)
4 会話文の読み方を考え合う。 ① どう読みたいか考えを書く。	<ul style="list-style-type: none"> ・声を出して試しながら、読み方の工夫(できれば理由も)をワークシートに記入させる。 ・机間指導により、自信の持てない子どもを中心にはげます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家族それぞれの会話文に着目し、工夫して読みたい言葉に考えを書いている。 (ワークシート)
② 音読の工夫について話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・「すごい。」「すごい。」と「今日の記念写真だなあ。」「大きな記念写真だこと。」という叙述をもとに、ちいち 	<ul style="list-style-type: none"> ・家族のそれぞれの思いについて考えることができる。(発表)

やんや兄の喜びと両親の不安な気持ちとを対比的に読み取らせる。

5 ちいちゃんたちの楽しさと両親の不安を対比しながら音読して味わう。

- ・話し合ったことをもとに、グループで役割を決めて音読させることにより、場面の様子や人物の気持ちを読み味わわせる。
- ・いくつかのグループに発表させ、がんばりを認め合わせる。




- ・話し合ったことをもとに、場面の様子や気持ちを考えながら自分なりに工夫して音読することができる。
- (音読表現)

6 本時のまとめをし、次時の見通しを持つ。

<p>① 「かげおくりのよくてきてりな空だなあ。」 なまえ ()</p> <p>●「かげおくりのよくてきてりな空だなあ。」 ○お父さん ○お母さん ○お兄ちゃん ○ちいちゃん</p>	<p>② 「えっ、かげおくり。」</p> <p>○お父さん ○お母さん ○お兄ちゃん ○ちいちゃん</p>	<p>③ 「かげおくりって、なあに。」</p> <p>○お父さん ○お母さん ○お兄ちゃん ○ちいちゃん</p>	<p>④ 「十、数える間、かげぼうしをじっと見つめるのさ。十、と言ったら、空を見上げる。すると、かげぼうしがそっくり空にうつつて見える。」</p> <p>○お父さん ○お母さん ○お兄ちゃん ○ちいちゃん</p>	<p>⑤ 「父さんや母さんが子どものときに、よく遊んだものさ。」</p> <p>○お父さん ○お母さん ○お兄ちゃん ○ちいちゃん</p>	<p>⑥ 「ね。今、みんなでやってみましょうよ。」</p> <p>○お父さん ○お母さん ○お兄ちゃん ○ちいちゃん</p>	<p>⑦ 「まはたさしちや、だめよ。」</p> <p>○お父さん ○お母さん ○お兄ちゃん ○ちいちゃん</p>	<p>⑧ 「まはたさしないよ。」</p> <p>○お父さん ○お母さん ○お兄ちゃん ○ちいちゃん</p>
--	---	--	--	---	--	--	---

<p>ワークシート</p> <p>⑨ 「ひとつ、ふたあつ、みいつつ。」</p> <p>○お父さん ○お母さん ○お兄ちゃん ○ちいちゃん</p>	<p>⑩ 「うつつ、いつつつ、むつつつ。」</p> <p>○お父さん ○お母さん ○お兄ちゃん ○ちいちゃん</p>	<p>⑪ 「ななあつ、やあつつ、にのうつつ。」</p> <p>○お父さん ○お母さん ○お兄ちゃん ○ちいちゃん</p>	<p>⑫ 「とわ。」</p> <p>○お父さん ○お母さん ○お兄ちゃん ○ちいちゃん</p>	<p>⑬ 「すこしい。」</p> <p>○お父さん ○お母さん ○お兄ちゃん ○ちいちゃん</p>	<p>⑭ 「今日の記念写真真だなあ。」</p> <p>○お父さん ○お母さん ○お兄ちゃん ○ちいちゃん</p>	<p>⑮ 「大きな記念写真真なこと。」</p> <p>○お父さん ○お母さん ○お兄ちゃん ○ちいちゃん</p>
--	--	--	---	---	--	--

2 授業記録

学 習 活 動	T：指導者の発問・指示 C：児童の活動
1 課題をつかむ	T：かげおくりをする4人の様子や気持ちを考えながら「 」の部分を音読しようというのが、今日のめあてです。
2 読み取る	T：その場面を通して読んでもらいます。立ちましょう。
	C：(1文ずつ音読)
	T：話し言葉が16ありますね。(ワークシート配布)表に①から⑧、裏に⑨から⑯まであります。上の段に誰が言った言葉かを書きます。
	C：(ワークシート書き込み)
	T：誰が言った言葉かを黒板に貼ってください。(指名)
	C：(16人前へ出る来る)
	T：どうですか。
	C：違っているとこある。
	C：⑥番はお父さんじゃなくてお母さん。
	T：⑧番はお兄ちゃんとちいちゃんと2つ貼ってあるけど、それでいいの？
	C：いいよ。
	T：⑩もお父さんとお母さんの2つ貼ってあるけど、いい？
	C：いい。
	C：お母さんだけ。
	T：お母さんだけだと思う人。
	C：(4人挙手)
	T：すると、⑩に4人貼ってるのもおかしい？
	C：それはいい。
	C：お兄ちゃんとちいちゃんの2人。(4人賛成)
	C：⑩番は「ちいちゃんとおにいちゃんもいっしょに数えだしました」と書いてあるから、全部です。
	T：「ちいちゃんとおにいちゃんもいっしょに数えだしました」だから、ちいちゃんとお兄ちゃんの2人でいいというんでしょ。おかしいですか？
	C：⑩はお父さんが数えていたところへお母さんの声も重なって、それと一緒に数えだした。



3 考え合う



T : 納得できましたか。

C : まず⑨でお父さんが数えだして、⑩でお父さんの声にお母さんの声も重なって、⑪でちいちゃんとお兄ちゃんも一緒に数えた。

T : 今言った中で、この言葉が大事だということを教えて。

C : 「も」です。

T : そうですね。だから、ここは4人で読まなきゃいけないんですね。昨日の練習で間違えていたグループがありましたね。誰が読むのかを決めるときに確認しましょう。1つの班にやってもらいましょう。

C(父) : 「ひとつつ、ふたあつ、みいつつ。」

C(父・母) : 「ようつつ、いつつつ、むうつつ。」

C(4人) : 「ななあつ、やあつつ、ここのうつ。」

C(4人) : 「とお。」

T : すべての班が今日の役で同時に読みます。

C(父) : 「ひとつつ、ふたあつ、みいつつ。」

C(父・母) : 「ようつつ、いつつつ、むうつつ。」

C(4人) : 「ななあつ、やあつつ、ここのうつ。」

C(4人) : 「とお。」

T : これが、「声が重なりました」「一緒に数え出しました」ということですよ。

T : では、プリントの下の部分にどんなふうに読んだらいいのかを書きます。

C : (ワークシート書き込み)

T : ①番ある人？

C : ①はつぶやくから小さい声で。

C : ②ははてなそうに。

C : 文末を上げる。

C : ④は大きな声で。

C : 説明しているからゆっくり。

C : ⑤はなつかしそうに。

C : ⑥は早く一緒にやりたいという気持ちを込めて。

C : ⑦は大きな声で速く。

C : ⑧は約束しているように。

C : ⑫は強い調子で勢いを付けて。

C : ⑪は楽しそうに。もうすぐだと楽しみにしている。



C : ⑬⑭はびっくりしているように。

C : ⑯をゆっくり。

C : ⑰は大きくて驚いている感じ。

C : なつかしい感じ。

T : 記念写真って知ってる。「今日の記念写真だなあ。」
ってどういうこと？

T : 今日ってどんな日？

C : 先祖の墓参りに行った日。

C : 出征する前の日。

T : 何の記念写真？

C : 出征する前の。

T : 出征するという事は、生きて帰れないかも知れないんだね。もしかすると、4人揃って写す最後の写真になるかも知れないですね。⑰⑱読むの難しいですよ。

T : 時間が来ましたので、明日、練習します。1つの班だけやってもらいましょう。

C : (4人で音読)

T : ⑰が難しかったね。あとはよかったよ。終わります。

3 授業を終えて

- 個人差はあるものの、叙述に即して読み取り、それを音声表現する力が確実に育ってきている。子どもたちが得意だった音読を指導の柱に据えたことで、読み取る力をより高めることができたと思う。
- 普段あまり発言しない子どもが挙手をして発表する場面が何度かあった。ワークシートが読みを深めていく上で効果的であったと考えられる。ただ、そうした子どもの発言を保障しようとするあまり、授業の後半が平板になり、山場に十分時間をかけられなかったことは反省している。
- 今回の授業は子どもたちの読みに依拠してボトムアップしていく展開であったが、会話文⑰⑱のような難度の高い読みには自ずと限界がある。こうした場面では、教師が核心に迫る主発問を用意し、子どもたちの思考を集中させていくべきであったと考える。